

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	無党派（守岡等）
活 動 項 目	先進地視察
年 月 日	令和元年11月13日
参 加 者 名	守岡等
視 察（ 研 修 ） 地	大分県竹田市
目 的	クアパークの取組を学ぶこと。
調査(研修)項目等	「クアパーク長湯」について ①建設に至った経過 ②市の施策の中での位置づけ ③施設建設の事業費と運営形態 ④顧客のターゲット ⑤科学的なエビデンス調査
概 要	<p>クアパーク長湯は一階が水着で入る温泉プールと50mの歩行浴ができ、二階が男女別浴室がある温泉棟になっています。そのほかレストラン棟、コテージ対応の宿泊棟からなる複合施設です。</p> <p>ここの特色の第一は、なんとといっても日本有数の自然炭酸泉であるという点です。重炭酸イオンが血流を促進し、頭髮の促進、ニキビ対策、加齢臭対策に非常に有効なのだそうです。</p> <p>そうした炭酸泉による歩行プールはちょうど良い負荷がかけられ、足腰が弱い高齢者の運動促進には非常に有効であることを実感しました。実際、杖をついていたお年寄りが、杖なしで帰って行ったという話も伺いました。</p> <p>温泉街にある健康施設ですが、観光的な面は度外視してまでも健康施設という側面を強調したいという担当者の話が印象的でした。</p>

たしかに歩行浴を2～3周しただけで、かなりの体力を消耗し、医療機関との連携による高齢者の健康寿命延伸には非常に有効な施設であると感じました。

しかし、開設してまだ日が浅いせいも、利用者の数は少なく、今後の運営の見通しという点では担当者も不安を感じているようでしたが、健康づくりという強いコンセプトを強調していたのが印象的でした。

建設費は4億円程度で、本市が予定している温泉健康施設よりもかなりコンパクトな設計が建設費を押し下げているようです。しかし、浴室はかなり広く、歩行入浴によってかなり体力を消耗し、ジム運動の必要性がないことから、本市の温泉健康施設ももう少しコンパクトにして、建設費を抑えることができるのではないかと感じました。

プールは丸いパールになっており、泳ぐことよりも水中運動を想定しており、歩行プールも歩道型の散策気分で歩ける工夫を凝らしています。

将来見通しという点が一番心配されますが、ここの運営主体が重碳酸温浴効果の普及を図る企業が担っていることから、その相乗効果も勘案した運営をしているのではないかと予想されました。

所

感

重碳酸泉という湯質と健康づくりというコンセプトが今後どのように市民に受け入れられていくか注目したいと感じると共に、本市の温泉健康施設についてもコンパクト化による建設費抑制、コンセプトと運営主体の明確化による将来不安の払拭という点でも、まだまだ再考しなければならないとの感を強くして帰ってきました。